



オオハナアブ  
(答え⇒53ページ)



アサヒナカワトンボ  
(答え⇒65ページ)

クイズ

Q 「どちらがオス？ メス？  
わかりますか？」

このページの虫たちはみな、  
オスとメスのペアになっています。  
みなさんは、いくつ見分けられますか？  
注目ポイントを知っていれば一目瞭然です。  
答えは、それぞれの虫のページに！



カナブン  
(答え⇒19ページ)



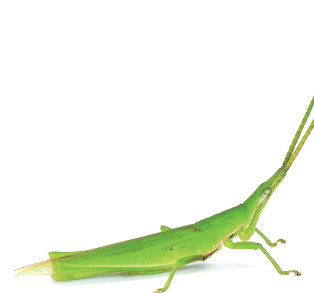
モンシロチョウ  
(答え⇒61ページ)



エンマコオロギ  
(答え⇒26ページ)



ミノウスバ  
(答え⇒15ページ)



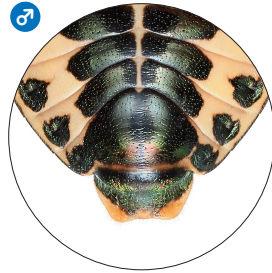
オンブバッタ  
(答え⇒56ページ)



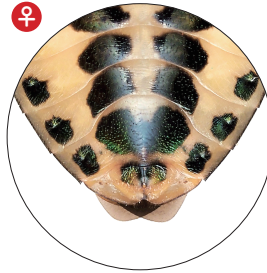
# 「かたち」に注目… 尾端（産卵管以外）



**アカスジキンカメムシ**  
[キンカメムシ科]



♂



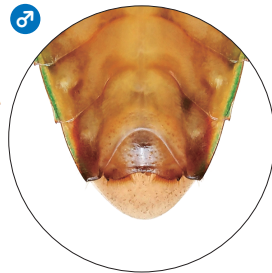
♀

尾端(腹面)

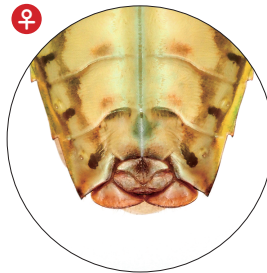
メスの方が白っぽくなる傾向はありますが、色は安定した識別点にはなりません。



**エサキモンキツノカメムシ**  
[ツノカメムシ科]



♂



♀

尾端(腹面)



**キマダラカメムシ** [カメムシ科]



♂



♀

尾端(腹面)

もようは個体差があり、識別点にはなりません。



尾端(腹面)

♂

亜生殖板というV字形の部分(矢印)が、外へふくらんだ形をしています。



**タイコウチ**  
[タイコウチ科]



尾端(腹面)

♀

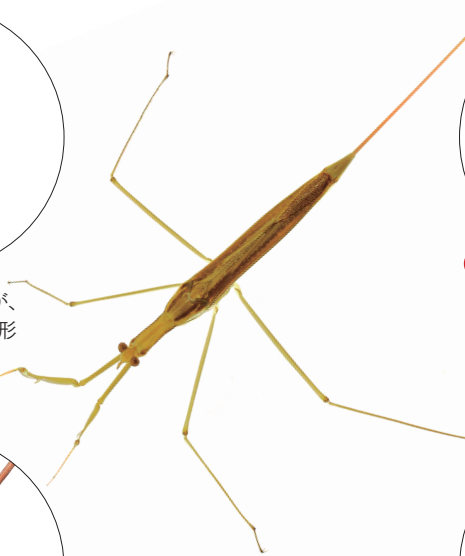
亜生殖板のV字が内側にしぼられて、とがった形に見えます。



尾端(腹面)

♂

亜生殖板のV字が、外へふくらんだ形をしています。



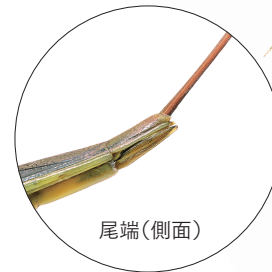
**ミズカマキリ**  
[タイコウチ科]



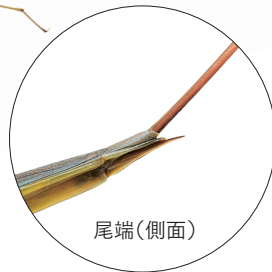
尾端(腹面)

♀

亜生殖板のV字が内側にしぼられて、とがった形に見えます。



尾端(側面)



尾端(側面)

横から見ると亜生殖板は実際にとがっており、尾端から突き出しています。



## コラム 05 オスだけ、メスだけ、左右非対称の虫

昆虫の体は、たいてい左右対称の構造になっています。樹皮などに擬態して隠れている虫を見つけるコツが、「樹皮上に左右対称のパターンを見出すこと」というぐらい、左右対称は昆虫の体の普遍的特徴です。しかし、何ごとにも例外はあり、多くのカミキリムシの大あごが左右で異なる形をしていたり、コオロギやキリギリスが、左右の前ばねのどちらを上にしてたんでいるかが決まっていたりします。

これらの非対称性は、雌雄どちらにも見られる「種としての特徴」ですが、中には、雌雄の一方だけが左右非対称という虫もいます。



♀ 前脚の附節つきぶねが幅広いこともメスの特徴です。

**ニホンホホビロコメツキモドキ**  
[オオキノコムシ科]

メスが左右非対称の虫です。枯れたメダケなどに産卵し、幼虫は節と節の間の空間で育ちます。メスの左右非対称の顔は、大あごの非対称性こそが重要なポイントで、硬くて厚い竹に穴を開けるのに都合のよい形であるようです。



♂の顔

ほぼ左右対称です。



♀の顔

左の「ほほ」が明らかに右側より張り出しています。



本種もオスは腹節が10節あります(40ページ)。

メスの腹節は8節です。



**ハサミムシ**  
(ハマベハサミムシ)  
[マルムネハサミムシ科]

オスが左右非対称の虫です。庭や公園などでも見られますが、「ハマベ」ハサミムシという別名の通り、海岸に打ち上げられた海藻やゴミなどの下でよく見つけられます。お尻の先のはさみは武器として使われ、オスのはさみは左右非対称で、右側が強く曲がっています。



♂のはさみ

右側が強く曲がっています。



♀のはさみ

ほぼ左右対称の形です。

## 「性標」とは

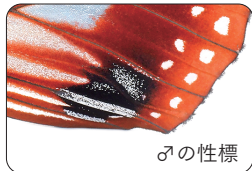
オスという性であることを示すアイコンが「性標」です。主にチョウの仲間に使われる用語で、性標は、はねの表や裏にあります。性標には特殊な鱗粉りんぷんが集まっており、そこからメスを惹きつける何らかの化学物質を出していると考えられています。性標の存在が、はねのどのような一部として視覚的にもはっきり確認できる場合、性標の有無が雌雄の識別ポイントとなります。ここで紹介するのは視覚的にわかりやすい例ですが、キタキチョウや一部のヒョウモンチョウ類、一部のセセリチョウなどのオスも目立たない性標を持っています。



**アサギマダラ**  
[タテハチョウ科]

**同じ見分け方**

スジグロカバマダラ、  
ヒメアサギマダラなど。



♂の性標

後ろばねに、視覚的にはっきりと確認できる黒色の性標があります。



オス



**カラスアゲハ** [アゲハチョウ科]

カラスアゲハは、はねの色だけでも雌雄が見分けられますが、オスは前ばねにビロード状の性標を持っています。



♂の性標

**同じ見分け方**

ミヤマカラスアゲハ、オキナワカラスアゲハ、ヤエヤマカラスアゲハ。



メス

## 発光器で見分けるホタル

ホタルの仲間には、発光しない種も多数存在しますが、光るホタルとして有名なゲンジボタルとヘイケボタルは発光器の特徴で雌雄が見分けられます。また、ゲンジボタルの場合は、集団で飛びながら点滅のタイミングが同期するのがオス、この発光間隔に同調せずに、下草などに止まって光っているのがメスと、光り方のちがいで雌雄がわかります。

**ゲンジボタル**  
[ホタル科]



オス

背面からでも複眼の大きさが雌雄が見分けられます。複眼が大きいのがオスです。



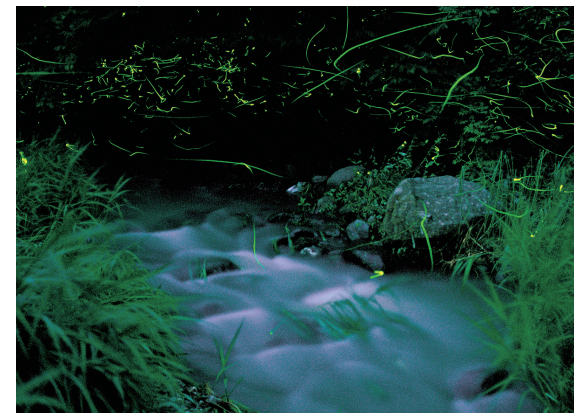
♂ 腹面

発光器が2つの腹節(矢印)にまたがっているのがオスです。ヘイケボタルの発光器も同様です。体はメスより小型です。



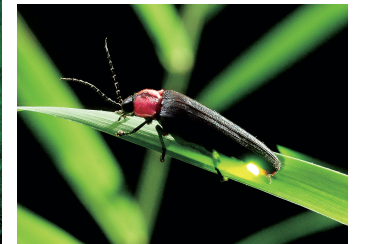
♀ 腹面

発光器が1つの腹節(矢印)のみです。すぐ後ろ(お尻側)のピンク色の節は光りません。複眼が小さいこともメスの特徴です。



**川面を乱舞するゲンジボタルのオス**

幼虫が流水で育つので、成虫も川辺で見られます。オスは点滅のタイミングが同期していますが、東日本と西日本では発光間隔が異なり、東日本ではおよそ4秒に1回、西日本ではおよそ2秒に1回光ります。



**ゲンジボタルのメス**

オスの集団明滅に同調せずに、メスはこのように下草でひっそりと光っています。オスは自分と同調しない光を見つけ出し、そこに舞い降りる行動を見せます。